



盛岡市プレスリリース
～ひと・まち・未来が輝き世界につながるまち盛岡～

令和 4年 10月 14日
教育委員会事務局
歴史文化課

市政記者クラブ加盟社 各位

第64回原敬記念館企画展「^{とおる}原達—叔父・^{たかし}原敬に期待された才人—」

実子がなかった原敬は、甥や姪たちを我が子のように愛しました。中でも将来を期待したのが、兄・恭（ゆたか）の二男・達です。

成績優秀な達は、飛び級で岩手県尋常中学校（現盛岡第一高等学校）に入学、やがて東京帝国大学法科大学（現東京大学法学部）の特待生にまでなりました。また正岡子規の弟子となり、俳人・原抱琴（ほうきん）としても活躍、岩手に近代文学の新風をもたらしています。しかし肺結核により28歳の若さで他界しました。

2022年は達の没後110年、2023年は生誕140年にあたります。この企画展ではこれを記念し、実物資料を通して彼の生涯や業績を紹介します。

記

【日時】令和4年10月22日（土曜日）～令和5年1月15日（日曜日）
9時00分～17時00分まで（入館は16時30分まで）

【休館日】毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）

【場所】原敬記念館小ホール 企画展示コーナー

【内容】主な展示資料

- ・野村長一宛原達書簡（野村胡堂・あらえびす記念館蔵）
明治32年（1899）9月4日付。長一（のちの胡堂）に対し丁寧に俳句の指導をしている。
- ・写真「正岡子規と門弟たち（子規庵蕪村忌）」（紫波町教育委員会蔵）
明治32年（1899）12月24日撮影。16歳の達（抱琴）や子規、虚子、碧梧桐らが一堂に会した貴重な写真。
- ・写真「原達（抱琴）と岩動孝久（露子）」（紫波町教育委員会蔵）
明治39年（1906）6月6日撮影。2人は親友で、岩手に日本派の俳句を広めた中心人物だった。初公開資料。
- ・原達日記「An Attic Philosopher in Tokyo・Japan」（原昌彦氏蔵）
18～21歳の達の日記。肺結核との闘病、子規との別れ、石川啄木ら友人たちとの交流等が記されている。



写真「原達（抱琴）と
岩動孝久（露子）」



原達日記「An Attic Philosopher in Tokyo・Japan」

【費用】小・中学生50円、一般200円、市内在住で65歳以上の方は無料

【主催】原敬記念館（所管：盛岡市教育委員会）・公益財団法人盛岡市文化振興事業団

【問い合わせ先】

原敬記念館
指定管理者：公益財団法人盛岡市文化振興事業団
担当：田崎農巳
TEL：019-636-1192

原敬記念館 第64回企画展

原

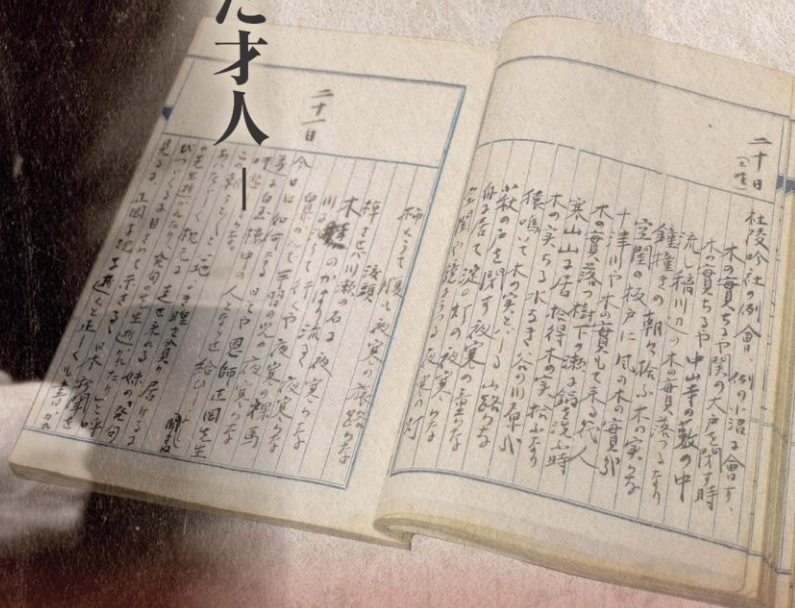
はら とおる

達

— 叔父・原敬はらたかしに期待された才人 —



へし
家苞に紅葉
一流れ祭の旗や
山上の五輪に賽す紅葉
紅葉山車の到る處
川上の湯守淋しき紅葉かな
抱琴



原達日記(原昌彦氏蔵)

東京外国語学校時代・23歳(紫波町教育委員会蔵)

令和4年10月22日(土)~令和5年1月15日(日)
原敬記念館小ホール 企画展示コーナー

- 開館時間 / 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始
- 入館料 / 一般 200円(団体 120円)
小・中学生 50円(団体 30円)
団体料金は30人以上の団体に適用します

指定管理者:公益財団法人盛岡市文化振興事業団

原敬記念館

HARA-KEI MEMORIAL MUSEUM

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮4丁目38-25
TEL:019-636-1192 FAX:019-636-1185

※ご来館の際は、マスクの着用・手指の消毒など感染症対策にご協力をお願いいたします。なお、感染症の拡大状況によっては本展および関連イベントが中止・変更となる場合があります。当館のウェブサイトやSNSにて最新の情報をご確認ください。



主催 / 原敬記念館(所管:盛岡市教育委員会)、公益財団法人盛岡市文化振興事業団 共催 / 原敬を想う会

原達

はらとのおる

— 叔父・原敬に期待された才人 —
令和4年10月22日(土)～令和5年1月15日(日)

実子がなかった原敬は、甥や姪たちを我が子のように愛しました。中でも将来を期待したのが、兄・恭の二男・達です。

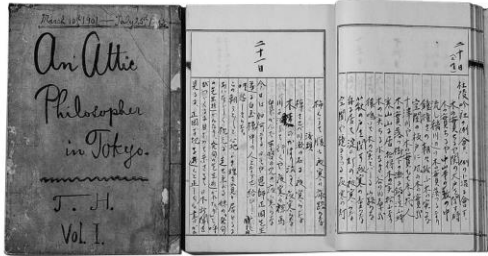
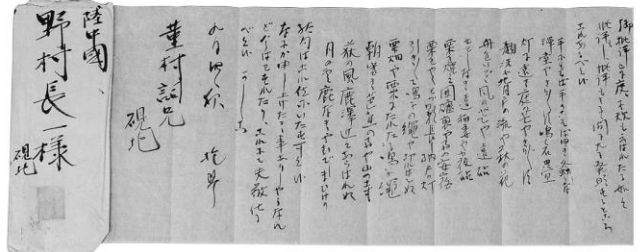
成績優秀な達は、飛び級で岩手県尋常中学校（現盛岡第一高等学校）に入学、やがて東京帝国大学法科大学（現東京大学法学部）の特待生にまでなりました。また正岡子規の弟子となり、俳人・原抱琴としても活躍、岩手に近代文学の新風をもたらしています。しかし肺結核により28歳の若さで他界しました。

2022年は達の没後110年にあたります。この企画展ではこれを記念し、実物資料を通して彼の生涯や業績を紹介します。



伝原達使用産着（原律子氏蔵）
達が生れた時に使われたと伝えられる。兄・香が2歳で他界したため、達是由緒ある原家を継ぐ実質の長男として大切に育てられた。

野村長一宛原達書簡
（野村胡堂・あらえびす記念館蔵）
明治32年(1899)9月4日付。親友・野村長一(のちの胡堂)が指導を求めて送ってきた句に対し、丁寧な批評を加えて返信している。



原達日記
「An Attic Philosopher in Tokyo・Japan」
（原昌彦氏蔵）
明治34年(1901)3月10日(18歳)～同37年(1904)2月19日(21歳)。全2冊。原敬や正岡子規、石川啄木らとの交流が記されている。



原抱琴



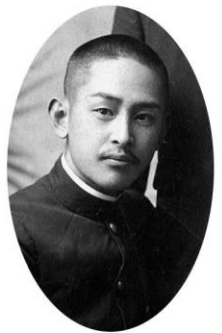
正岡子規



写真「正岡子規と門弟たち(子規庵蕪村忌)」(紫波町教育委員会蔵)
明治32年(1899)12月24日撮影。子規、高浜虚子、河東碧梧桐ら著名な俳人たちのなかに16歳の達(抱琴)も写る。

原達 | 1883～1912 |

明治16年(1883)2月5日、現岩手県盛岡市に生まれる(出生地は青森県という説もある)。原敬の兄・恭の二男。号は村雨、のち抱琴。岩手県尋常中学校から東京府尋常中学校に編入、第一高等学校、東京外国語学校を経て東京帝国大学法科大学に入学する。また盛岡に俳句団体・杜陵吟社を結成、俳誌『紫苑』の選者等も務めた。明治45年(1912)1月17日、肺結核により盛岡の自宅で死亡。享年28歳。



◆企画展関連講座

演題／原達 — 叔父・原敬に期待された才人 —
講師／田崎農巳(原敬記念館主任学芸員)
日時／令和4年12月17日(土) 13:30～15:00
料金／無料
受付／令和4年12月3日(土) 10:00～電話にて先着15人

◆ギャラリートーク

日時／①令和4年11月13日(日) 13:30～14:15
② 〃 12月17日(土) 15:15～16:00
③令和5年1月15日(日) 13:30～14:15
受付／①令和4年10月30日(日)、②12月3日(土)、③令和5年1月8日(日)
いずれも10:00～電話にて先着15人
料金／入館料が必要(ただし②のみ同日開催の講座参加者は無料)

(公財)盛岡市文化振興事業団からのお知らせ [他館のご案内]

◎盛岡市先人記念館

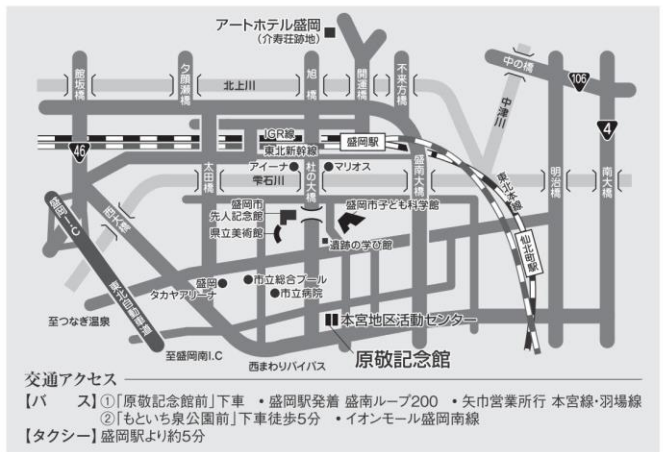
第66回企画展「南部鑄金研究所に集う人々」
令和4年9月17日(土)～11月20日(日)

◎石川啄木記念館

第17回企画展「教科書の中の啄木」
令和4年9月27日(火)～令和5年1月22日(日)

◎盛岡てがみ館

第66回企画展
「野村胡堂生誕140年記念 野村胡堂のてがみ」
令和4年10月18日(火)～令和5年2月13日(月)



交通アクセス

【バス】①「原敬記念館前」下車・盛岡駅発着 盛南ループ200・矢巾営業所行 本宮線・羽場線
②「もといち泉公園前」下車徒歩5分・イオンモール盛岡南線
【タクシー】盛岡駅より約5分